

構築会兵庫支部 平成20年度見学会・総会の概要

平成20年度の見学会は、土木・建築の歴史を学ぼうと近代化遺産の2カ所を選び、併せて工事現場の計3カ所を、視察先のご協力を得て見学させていただきました。8月初旬の真夏の炎天下の中42名の会員が参加し開催いたしました。

最初は西宮市の武庫川女子大学内の「甲子園会館」を訪ねました。この建物はフランク・ロイド・ライト氏(米 1869～1959)の愛弟子:遠藤新氏(1889～1951)の設計により、昭和5(1930)年に甲子園ホテルとして竣工した近代建築で、昭和40(1965)年より武庫川学院の所有として保存され、現在は武庫川女子大学の建築学科の学舎として利用されています。独創的な名建築で、かつては「東の帝国ホテル、西の甲子園ホテル」と並び称され、阪神間における高級社交場としても賑わった建物です。参加者はホールの光天井や細やかな細工などを興味深く見入りました。

続いて甲子園会館のすぐ近くにある橋梁「武庫大橋」に行きました。武庫大橋は尼崎・西宮市境の武庫川に架かる国道2号の道路橋(当初は鉄道・道路併用橋)で、設計は当代有数の橋の技術者であった増田淳氏(1883～1947)です。竣工は大正5(1926)年、供用当時最大級(6連)のRC開腹アーチ橋で、開腹部はアーケード状の装飾的なバルコニーを有しています。平成7(1995)年の阪神・淡路大震災では、関東大震災の教訓から耐震性に配慮した設計により欄干の一部損傷に留まり、今なお重厚で優美な姿を見せています。

最後は都市計画道路山手幹線の芦屋川地下横断の現場を視察させていただきました。生活の利便性や交通の安全性向上に加え、災害時における防災機能が期待されている道路で、住宅密集地区でのトンネル工事のご苦勞を伺いました。

見学会の後は、福田構築会会長と大学より社会基盤工学部門の西田先生、建築工学部門長の多田先生をお迎えし、灘の酒蔵「酒心館」で総会と懇親会を盛大に行いました。見学会で汗を流した身体にいただくビールや日本酒は格別の美味しさで、参加した会員の親睦が図られたと思っています。

